

2025 年度事業計画

一般財団法人台湾協会は、1950（昭和 25）年 9 月 27 日に設立され、また機関誌『台湾協会報』は同年 10 月 15 日に創刊されていることから、当協会にとり、今年度は設立 75 周年の記念すべき年となる。このため、これまで先人方の遺された御偉業、御功績を改めて振り返り、未来を見つめることが望まれている。加えて、従前から課題としてきた日台間の親善と学術・文化の交流を更に積極的に推進し、会員及び台湾関係者の親善交流・相互理解・共栄をより一層図っていく必要がある。

については、これらを踏まえ、今年度は下記の事業を推進することとする。事業推進に当たっては、昨年度に引き続き、まず「台湾協会改革の方向性」の徹底を理事全員で再確認することが求められている。

◇台湾協会改革の方向性の再確認◇

- (1) 台湾協会設立の趣旨に則した長期的・持続的な事業の在り方を再検討する。
- (2) 日台相互理解・日台交流を担える次世代会員を育成する。
- (3) 現今の経済環境に見合った事業再構築を図る。

台湾協会の目指す方向

会員同士の支え合い、交流
(引揚者、湾生中心)



1 協会目的達成のための活動

- ・会報の充実

会員相互の最重要連携媒体である『台湾協会報』を定期的に発行し、会員間のコミュニケーション増進及び関係先との連携強化を促進する。

- ・入会手続、爾後管理システムの簡便化

従来高齢者をはじめ一部の方々にはややもすれば不便であった入会手続、爾後管理システムを改善し、会員の皆様の御負担の軽減を図る。

- ・情報発信力の強化

協会の広報周知方策の要であるホームページ及び会員管理システムのリニューアルに努める。また、協会の継続運営に必要な若手会員の増加に繋げるべく、Facebook等による情報発信を充実強化する。

2 台湾関係重要図書・資料等の収集・活用事業の促進

- ・台湾関係図書・資料（地図、写真等）その他の充実及び整理に配意する。

- ・台湾関係図書・資料等蔵書の検索機能を高める。

3 台湾関係物故者慰靈法要の斎行事業

- ・築地本願寺での台湾関係邦人物故者追悼法要

10月4日（土）築地本願寺にて台湾関係邦人物故者慰靈法要を斎行する。

- ・台湾出身戦没者慰靈法要

5月27日（火）関係団体が主催し台湾協会が後援する奥多摩台湾出身戦没者慰靈法要に参列する。

- ・台湾での邦人物故者慰靈祭

11月10日（月）、12日（水）、台湾日本人会が主催する邦人物故者慰靈祭に遺族代表の立場で参列する。

- ・バシー海峡慰靈祭

8月3日（日）、バシー海峡戦没者慰靈祭実行委員会主催、潮音寺管理委員会共催で台湾協会が後援するバシー海峡戦没者十周年記念慰靈祭に参列する。

- ・全国及び東京都戦歿者追悼式

8月15日（金）全国及び東京都戦歿者追悼式に参列する。

4 日台間の相互理解の促進

- ・日台相互理解・日台交流を担う次世代会員の育成

一昨年来実施の「ファミリー会」を継続的に開催することにより、湾生の子孫や広く日台交流に関心のある方々に入会いただき、協会の次世代を担う会員として育成を図る。

- ・「交礼台湾の会」の開催

「交礼台湾の会」を、今年度は「台湾協会設立 75 周年記念行事」として趣向を凝らしたものにし、4 月 12 日（土）にアルカディア市ヶ谷（私学会館）で開催する。

- ・「講演会」の開催

諸般の事情でしばらく休止していた「講演会」を「台湾協会設立 75 周年」に際し復活することとし、11 月末から 12 月初めの間に開催する。

- ・台北駐日経済文化代表處及び〈公財〉日本台湾交流協会との連携・交流
両者の御配慮を得て、日台相互理解の促進に努める。

- ・各地「台湾の会」との交流・活動確認

各地所在の「台湾の会」に積極的に参加し、交流を深める。

- ・学術及び文化の振興

日本台湾学会、天理台湾学会等の学会活動を支援する。

- ・関係団体との交流

日華青少年交流協会御主催「日本大学学生訪華研修団団員」選考に対し、前向きに協力したりして、協会活動の一層の充実を図る。

- ・青少年の健全な育成

台北駐日経済文化代表處や友好団体と協力し、「交礼の会」に台湾留学生を招待したりすることにより、相互理解の促進に努める。

以上